諸井家関連地図

1 諸井家住宅（もろいけじゅうたく）

10代目諸井泉衛が、開善寺の火災による焼失後、大工に横浜市の洋風建築を学ばせ、明治13年（1880年）に建築したものです。ベランダの手すりとコロニアル風格子天井、漆喰の壁天井、色ガラスの窓など、**随所に洋風の建築手法**が散りばめられています。県指定の文化財。

崖上から見える本庄独自の自然景観

6 五州山荘跡（ごしゅうさんそうあと）

※現在は記念碑のみ残っています。

北諸井家の**諸井治郎**、は、**採芹（さいきん）と号した文化人**です。明治20年前後、採芹は、寺坂の崖沿い（本庄台地末端の崖沿い）に、「五州園」を開きました。

「五州山荘と寺坂橋」

出典：『本庄地元学だより』（増田 未来望著/本庄まちNET）

山荘名の由来は、ここから五州の山々が見渡せることによります。

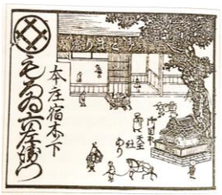
※五州の山…赤城山（上州）、三国山（越州）、浅間山（信州）、日光山（野州）、筑波山（常州）

明治22年、この地を訪れた**小松親王**から五州の山並みを絶賛されたことを記念して**「五州山荘記」碑**が建立されました。

7 安養院（あんようういん）

室町時代中期の1475年、児玉党の本庄信明により創設されたと伝えられています。安養院は、三代将軍徳川家光より25石の御朱印を賜っています。中山道本庄宿で最も大きな木造建築物で、「本堂、山門、総門」は本庄市の指定文化財となっています。

諸井家を始め、森田・内田・関根・戸谷など、花の木18軒の多くが、安養院を**菩提寺**としています。前庭には、ひときわ大きな、明治書道会・初代会長（諸井時三郎）の**「春畦諸井先生碑」**があります。**妻の華畦**（かけい）の書によるものです。安養院本堂が老朽化のため改修の際には、諸井家の方に多大な貢献をしていただきました。



『南家高名録』の木ノ下諸井

出典：『本庄地元学だより』（増田 未来望著/本庄まちNET）

9 木ノ下諸井（きのしたもろい）

本庄市立図書館の入り口近く、中山道の西側には、かつて**「上天王」**と呼ばれた新田町の**市神様**が鎮座していました。榎が大きく育っていたので、**榎を目印に「木ノ下諸井」**の屋号が誕生しました。

※「上天王」の市神様は現在、**金鑽神社の境内**に遷座しています。

※本庄宿の東側には**「下天王」**と呼ばれた本町の**市神様**が鎮座していました。現在、**城山稲荷神社**に合祀されています。

10 8 本庄西中学校・東中学校 校歌

本庄西中学校と本庄東中学校の校歌は、日本を代表する作曲家・音楽理論家・音楽教育者として活躍した**諸井三郎氏**（1903－1977）によって作曲されました。

※諸井三郎氏は、著名な詩人である**三好達治氏**とコンビで、東京工業大学の大学歌も作っています。

※戸谷間四郎も、恒平と貫一の間に郵便局長をしていました。

2 旧本庄仲町郵便局（きゅうほんじょうなかまちゆうびんきょく）

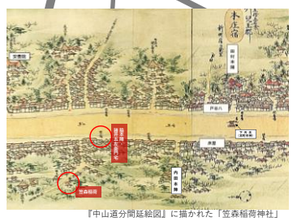
秩父セメントの創始者である**諸井恒平**が、昭和9年（1934年）に建築。外観はタイル張りで、当時世界的に流行した**アールデコ調の装飾**が階段の手すりなどに採用されています。独特の風格を漂わせており、昭和初期の歴史的景観を留めています。国登録有形文化財。

3 愛宕神社（あたごじんじゃ）

愛宕神社は、天正19年（1591年）に本庄城主小笠原信嶺が勧請したと言われ、愛宕山と呼ばれる古墳の上に鎮座しています。

『敬神』の石碑は、**諸井時三郎（春畦・しゅんけい）**による揮毫。

御神木の大欅が枝を広げています。この欅は樹齢400年以上と言われており、昭和43年、本庄市指定の文化財となっています。



『中山道分間延絵図』に描かれた「笠森稲荷神社」

『笠森稲荷』

出典：『本庄地元学だより』（増田 未来望著/本庄まちNET）

4 笠森稲荷（かさもりいなり）

※現在は旧本庄市立歴史民俗資料館に保管。

江戸時代に、本庄宿で風光明媚な場所を8つ選び、**「本庄八景」**としました。

「笠森稲荷」は、**小暮雪堂（こぐれせつどう）**によって月が美しく見える**『笠森秋月（かさもりしゅうげつ）』**として本庄八景の一つとして、選ばれました。

明治になり、この「笠森稲荷」が小学校建設のため取り壊される危機の時、南諸井家は行政に願い出て、自分の家の屋敷稲荷として保護しました。

宿内の人は子宝の神として信仰する人が多く、絵馬などが奉納されていました。

5 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫（きゅうほんじょうしょうぎょうぎんこうれんがそうこ）

明治5年、官営富岡製糸場が設立されると、初代場長であった**尾高惇忠**は、繭の買い入れを**諸井泉衛の父**らに依頼。本庄は繭取引の拠点に設定され、繭の集散地となります。明治27年（1894年）、**諸井孝次郎・宮下林平・戸谷八郎左衛門**らによって、繭を担保とした資金貸付を目的として**「本庄商業銀行」**が設立。この建物は、明治29年に、**担保として預かった大量の繭を保管するため**に建築したものです。深谷市にあった**日本煉瓦製造の煉瓦**が使われています。絹産業が盛んであった本庄町の繁栄を伝える貴重な建物です。

【その他埼玉県の関連施設】

11 日本煉瓦製造（にほんれんがせいぞう）（深谷）

明治20年操業。初代会長・渋沢栄一翁の後を継ぎ、諸井恒平が2代目会長となる。（3代 諸井四郎、4代 諸井貫一）

12 秩父セメント（秩父）

明治末年、諸井恒平は、武甲山の石灰岩に注目し、秩父セメントを創設する。

13 宝登山神社・大鳥居（ほどさんじんじゃ・おおとりい）（長瀞）

昭和31年諸井貫一は宝登山神社の大鳥居を寄進。長瀞を中心とした観光事業にも貢献した。

宝登山神社の大鳥居

旧秩父セメント第二工場

“日本一美しい工場建築”（谷口吉郎設計）

ホフマン輪窯（わがま）

（※明治40年～昭和43年まで65年間稼働）

戸谷八商店　戸谷充宏作成